

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1322 2025/02/20 (THU)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

能登半島地震の支援に取り組む高校生たち

2024年元旦に起きた能登半島地震。高校平和ゼミナールの生徒たちは、被害状況などを調べ、自分たちができることをしようと早速1月に募金をおこないました。昨年1年間で7回行ないました。そして、ニュースなどでまだ十分復旧していない状況を見て、2月16日(日)に8回目の募金活動を行いました。参加した進徳高校3年生の感想を今回はほぼ全文紹介します。



久しぶりの募金だったため、今までのように声を出せるか不安でした。さらに、近くでマイクや拡声器を使って演説している人もいて、自分たちが埋もれてしまうのではないかと、さらに不安になりました。しかし、演説している人が私たちを紹介して下さったことで、声を出



出す勇気が出ました。ありがたい気持ちもありましたが、「向こうはマイクやらなんやら持っている。こっちは、地声。負けるわけにはいかないという感情が芽生えてきました。振り返ってみますと、今までの募金活動の中で一番声が出ていたなと思います。演説組に負けまいと必死で声を出し呼びかけていると、だんだん協力してくださる人も増えてきたし、見てくれる人も増えてきました。その中で、石川県から来てこられていた方が協力してくださり、とても感動しました。これが繋がりがだなど感じました。さらに、かなちゃん(1年生の女の子)が、自分で言うセリフをアレンジして大きい声を出しているのを見て、なんだか嬉しくて感動して泣きそうになりました。

長い間後輩たちと一緒に活動してきましたが、今日の募金活動が一番印象に残る活動になりました。それは、明日から学校があるのにきちんと活動に参加したり、自分から積極的に考えて発言したり、久しぶりの参加にもかかわらず、みんなについていこうと頑張って声を出している後輩の姿を見たからだと思います。

募金に協力してくださった方々との繋がりを感じつつ、後輩との強い繋がりをあらためて感じる事ができた一日となりました。大学に進学した後、本通りで募金活動をしているみんなに遭遇できたらいいなと思います。

(望月 照巳)



▼人間の残酷さと、素晴らしさ。その両方を内面に持ち、葛藤しつつ日々を生きています

▼だからこそ、「対立物の統一」として、物を人を、歴史を、自然を捉えることの重要性を私たちは、学んできました▼何故、人は互いに連帯し協力して支え合うことの素晴らしさを知っているのに、反目し誹謗中傷を繰り返したり、暴力を是認するような墮落した精神状態に陥るのか▼それは、現実の社会システムの構造が、競争し相手を蹴落とすことによって「成功者」になる仕組みがあるからだ▼と、唯物論者は考えます▼「十分に愛された子どもは、自己愛を持ちやがてそれは、他者への愛に発展する。愛されずに育った子は、自尊心を持つことは出来ず、他者との愛を育てることとは難しい」▼ルソーの「エミール」には、確かこのような内容であったと記憶している▼しかし、愛される時期は、いつであつてもその量が満たされるならば、他人を愛することに必ず繋がる事も信じてい▼そして、「叱られる時には、叱られる権利がある」から、きちんと本気で叱ってあげたいものです。